

## 幼児Canぶ研究会 活動報告

中山 正 剛

### 1. 幼児Canぶ研究会の活動について

私たち「幼児Canぶ研究会」は、2019年度は「2年生30名、1年生44名（計74名）」で活動をしてきました。別府市少年自然の家や別府市青年会議所、ABC野外活動センターなどが主催する子どものキャンプ活動や野外活動の補助や企画運営を中心に活動しました。

### 2. 2019年度の主な活動スケジュールと活動内容

幼児Canぶ研究会の1年間の活動スケジュールと活動内容を以下に示します。

| 月日                                  | 活動内容  |
|-------------------------------------|---|
| 4/10                                | 研究会紹介（その後、入会希望者歓迎会）                           |
| 5/25                                | 新入生歓迎合宿（別府市少年自然の家 おじか）                        |
| 6/30                                | 「キャンプフェスinリバーパーク犬飼」の企画運営<br>※悪天候により延期         |
| 7/21, 8/4,<br>9/15, 10/20,<br>11/17 | 「ABCキッズクラブ 自然の楽校2019 in杵築市住吉浜リゾートパーク」の野外活動の補助 |
| 8/8～23                              | すぎのこ幼稚園 夏休みお預かりボランティア                         |
| 10/6                                | 「キャンプフェスinリバーパーク犬飼」の企画運営<br>※6/30の延期分         |
| 11/13                               | わくわくフェスティバルでのオペレッタ公演（スイカ泥棒）                   |

|       |                                    |
|-------|------------------------------------|
| 12/21 | 「クリスマスファンタジアin」にて子どもたちとクリスマスソングを歌う |
|-------|------------------------------------|

### 3. 今年度の活動を振り返って

#### （1）幹部の感想

- ・私が研究会活動で学んだことは、メンバーの話を聞いてみんなの意見を反映することの大切さです。大きな行事であるクリスマスファンタジアでは、どうすれば子どもたちに楽しんでもらえるのか、どうしたら子どもの思い出に残る活動になるのかをメンバーと話し合いながら進めていきました。幹部だからといって物事を勝手に決めたり進めたりせず同級生や時には後輩の話などを聞くことで、みんなでより良い研究会活動にすることができたと思います。
- ・私は幹部をさせてもらったことで、周りへの配慮の仕方や物事の計画の仕方を身に付けることができたと思います。また、研究会内の活動はもちろんですが、野外活動をさせてもらうことにより、先を予測しながら物事を決めたり考えたりしないということも学ぶことができました。特にクリスマスファンタジアでは、子どもを楽しませることを目標に、色々なことを考えて、練習や話し合いを何度もしました。研究会内ではメンバーに目的などをしっかり理解してもらうために、どうやったら伝わるかを考えることで、周りを見て配慮をする力がついたと思います。一人ではできないことを幹部として経験でき、これから保



育者として大切なことを気づかせてもらった  
と思います。

- ・幼Canの活動を通して得たものは、研究会の  
メンバーやイベントで出会う子どもたちが、  
どうやったら活動により興味を持ってもらえ  
るかを考える力がついたところだと思います。  
元々、考えたり企画したりすることが好  
きな方ではありましたが、実際に幹部になり、  
ただ何かをするのではなく、「これをするこ  
とでどうなるのか」などの目的を明確にしな  
がら考えることができるようになりました。



## (2) 顧問より

キャンプの補助では、子どもたちと密接に関  
わることになり、クリスマスファンタジアでは、  
多くの子どもたちとの関わりがあり、目の前の  
子どもとの深い関わりや多く子どもたちとの関  
わりが経験でき、大学の授業では学べないこと  
を学ぶことができたのではないかと思います。  
ただし、本研究会の課題として、キャンプ補助  
では、研究会メンバーの一部の学生しか経験で  
きていないことが挙げられます。せっかくこの  
研究会に入ったのに、一度もキャンプの補助を  
せずに卒業する学生がいることも事実です。今  
後は、学生自身がキャンプをする機会を増やす  
などして、キャンプ補助スキルの向上を目的と  
した活動の必要性を感じました。

